

2020年度 北海道シニアサッカー連盟

第2回常任理事会 議事録

1 期 日 2020年12月5日(土) 15:00~17:00

2 場 所 札幌エルプラザ 2F 環境研修室② (北8条西3丁目)

3 出席状況

(1)出席理事

【出席】工藤・三浦副会長、佐藤英理事長、伊東・二川副理事長、小林・眞木・吉田・飯田常任理事の9名【web出席】西川会長、松本副会長、小田中・小笠原・松本健・亀山常任理事の6名

(2)出席 (オブザーバー)

川田会計監事・・・急遽欠席

(3)欠席

小坂副理事長、佐藤晃・松本真・水落常任理事の4名

4 会長挨拶

コロナ禍でさまざまな大会が中止となった。

この後どうなるか分からないが、やれることをやっていきたい。議題は色々あるが、時間も限られているのでよろしくお願いします。

5 議 題

(1)2020年度 シニア連盟主管事業報告 → 佐藤理事長

①2020年度 シニア種登録状況及び新チーム登録状況、年間事業計画、各種大会報告

- ・資料に基づき説明を行った。
- ・今年度の連盟登録チーム数は昨年の104チームから107チームに増加したが、今後も増加傾向が続くものと考えられる。また、JFA登録は行っているが連盟登録をしていないチーム(その逆もあり)が数チームあるが、11/21のシニア委員会においても確認したとおり、JFA登録と連盟登録はセットで行っていただくよう、働きかける。
- ・今年度は、コロナの影響で全道シニア8人制オープン大会(5/4-5 札幌)及び北海道シニア8ツアーオープン大会(6/6-7 滝川)が中止になったが、それ以外の大会は8月1日からの3ヶ月に限定された期間でなんとか実施できた。
- ・3/6-7に滝川で予定していた北海道シニアフットサルオープン大会はコロナの影響で中止が決定した。

(2) 2020 年度 各地区活動報告

【サッカー】

① 60-70 部門 (松本)

・道央シニア 6570&L サッカーリーグ (水曜開催) と北海道 60 スーパーリーグ (土曜開催) は、8 月からの短期間ではあったが、何とか予定をこなせた。

②道央 (佐藤)

・例年は 5 月～10 月までの 10 節開催だが、今年は 8 月からの 6 節開催とした。
・50・40 部門ともに 2 ブロック制の総当りを基本としてきたが、今年度は更にブロックを半分に分けて試合数を調整することで、最終順位を決定した。

③道北 (松本)

・40 部門は 5 チームによる総当り、50 部門は 2 チームによる 2 回戦方式で実施。

④道東 (西川)

・十勝 50 は 4 チーム、十勝 40 は 7 チーム、オホーツクは 6 チーム、釧路は 8 チーム、根室は 3 チームで、各々総当りのリーグ戦を実施。

⑤道南 (小笠原)

・40 部門は 9 チームによる変則リーグ、50 部門及び 60 部門は各々 5 チームによる総当りを実施。

【フットサルの予定】

① 60 部門

・1 月から参加希望の 5 チームが、イーワンスタジアムで実施予定。

② 道央 (小林)

・1 月よりチオスリーグを準備中。コロナの影響により開催できるかは未定。

③道北 (松本)

・旭川は事業自体が中止。コロナが今のままでは難しい。

④道東 (西川)

・1・2 月のリーグ戦は未定。11・12 月と余暇のためのフットサルは中止としている。

⑤道南 (小笠原)

・1 か月前からフットサルの練習を開始している。今のところは例年通り。

(3)2020 年度 全国大会報告

- ・今年度は 70・60 がコロナの影響で中止となり、50 は 6 月から 12 月に延期となり藤枝で実施予定。北海道からは DoconJack50 と札幌 50CERI 鳥の 2 チームが参加。
- ・40 は福島の J ヴィレッジで行われ、北海道代表として帯広フットボールクラブ、アンフィニ VANKEI FC40 の 2 チームが出場。
- ・帯広フットボールクラブは見事予選を突破し、決勝トーナメントの準決勝では、前回優勝の兵庫サッカークラブに惜しくも敗れはしましたが、全国第 3 位の結果を残したとの報告がなされた。
- ・アンフィニ VANKEI FC40 は 3 位で残念ながら予選突破はならなかったが、全国の

レベルが一昨年より上がっており、ディフェンスが良かった横浜シニアには元川崎フロンターレの選手が6～7人いるチームだった。(眞木)

(4) 2020年度 HKFA シニア委員会報告 → 二川副理事長

①全道シニア 40・50 サッカー大会普及枠について

- ・普及枠を40は2枠、50も2枠を継続する方向となったが、弾力的に運用することで一致した。
- ・次年度全道40の普及枠については、今年度はコロナの影響で会場を道東から道北に変更したが、開催地枠の変更は行わなかったため、開催地枠のある道央分の普及枠を道北に変更することとした。
- ・各大会の謝金については、これまでどおり出す方向で検討している。

②全道シニア 40・50・60大会における帯同審判制の検証について

- ・現状のまま帯同審判制を継続する方向とし、謝金についてもこれまで通り出す方向で続けていきたい。

③全道シニア 60大会の参加資格について

- ・今年度はコロナの影響もあり、18チームの変則リーグで実施したが、次年度は16チーム参加の大会にする。
- ・現在60チームは19チームの登録があるため、50・40と同様に比率によって出場枠を決める事とした。
- ・出場枠を選定する地区は道央地区(11チーム→9チーム)、道南地区(5チーム→4チーム)の2地区になるが、選定方法は各地区に任せる事とした。

④各事業の開催要項について

- ・全道シニア 40 サッカー大会は夕張のサングリーンスポーツビレッジを予定。
- ・全道シニア 50 サッカー大会は会場が苫小牧の浜厚真か緑ヶ丘(人工芝)を予定。
- ・50・60の全国出場チーム数については12月開催の全国シニア大会部会で検討して決定する予定。
- ・全道シニア 60 サッカー大会は帯広の森球技場を予定。
- ・全道シニア 70 サッカー大会は夕張のサングリーンスポーツビレッジを予定。
- ・全道シニア 8人制サッカー大会は、5/3～5/4 または 5/4～5/5 のどちらかで東雁来を予定。
- ・北海道シニアオープン大会(夕張)は、夕張4面と栗山2面の6面での開催を予定。
- ・8ツアーは中標津の運動公園を予定。
- ・全道シニアフットサルOP大会は、来年度は札幌を予定していたが、今年度(2021年_3月)がコロナの影響で中止になったのと、北空知地区のご厚意もあり次年度もスライドで北空知地区での開催(2022年_3月)とした
- ・全道フットサルの登録人数が20名に対してベンチ入りの人数(競技者5名+交代要

員 7 名)であり、登録してもベンチ入り出来ない実情に対して、フットサルもシニア運用にならないかを検討したいとの議題があった。今後札幌フットサル連盟と連携を深め打診していく予定。

⑤ 主管大会の地区希望調査について

- ・2021 年度は決まっているが、2022 年度以降は未定のため、主管地区にお願いをした。
- ・旭川は人工芝なら可能性あり、土別は要望があれば対応可能ですとの心強い回答をいただいた。
- ・室蘭地区、函館地区はここ数年の開催は厳しいとの話しがありましたが、同じ地区の苫小牧地区は要望があれば引き受けてくれるとの回答をいただいた。
- ・十勝地区も要望があれば対応可能という安定の回答をいただいた。

⑥ 70 部門 JFA 登録について

- ・全日本 O-70 大会がフェスティバルから 60・50・40 と同じ位置づけの大会に変更となる事に伴い 70 の JFA チーム登録を進めて行きたい。このことに関して地方のチームの中には 70 代が 60 チームのリーグ戦に出ている事もあり、70 の単独チームでの登録をしてしまうと 60 の大会に現状の要項では参加出来ない状況となる事もあり現実的に厳しいとの話しがあった。70 の JFA チーム登録を進めて行くには、70 の選手が 60 の大会に出場する際には、チーム登録を問わない等の緩和策が必要になる事が分かった。今後シニア連盟でも協議をして進めて行きたいとの話して終えた。
- ・JFA の登録を 70 代でも進めていく予定だが、60 大会のレギュレーションを変えて 70 代で登録した選手が 60 大会に出られるようにしたいと考えている。ご意見を伺いたい。
- ・以下の意見が出たが、今後継続して協議する。

松本：個人登録は地元の 60 のチームでしていただき、全道大会 70 の開催要項では地元で 70 に出られるチームがない(同じ地区でそろわない)場合には、カテゴリを跨いでも出られるように修正して対応するのが良い。

西川：十勝と釧路の 60 のチームの中から 70 のチームを作るということも考えられる。年々状況がかわっていくと思う。

佐藤：JFA 登録は登録人数が 1 人でもできる。

二川：60 登録・70 登録どちらの方法も考えられるが、70 登録を進める方向を検討している。

小笠原：70 を増やしていく狙いは？

松本：全国大会を開催する関係で、70 登録を増やす方向となっているため。

佐藤：各チームの 70 の人数を確認し検証する必要がある。

(5) 2020 年度決算見込み及び次年度予算案 → 伊東副理事長

伊東：

- ・今回はコロナの影響で多くの大会や 20 周年事業、理事総会も中止となり、web 参加者が多く、常任理事会の旅費も削減されたため、今年度の繰越金が多まっている。

- ・全道大会での理学療法士の旅費を連盟から補助することで、各地区の大会経費の負担を減らすようにしたい。

西川：各地区のオープン大会等へもっと支援してあげたらよいのでは。

松本：繰越金がここまで増えたら登録金を見直すことも考えられる。

佐藤：

- ・継続的に連盟の運転資金としてどのくらいあれば健全な経営ができるか分析する必要があるが、単年度に限り、現在 25000 円の登録料を減額することも考えられる。
- ・来季以降の 70 部門の連盟登録料については、年金くらいしか収入がないと考えられる一般的な 70 部門の家計状況を考慮し（お金をもっている高齢者もいるかもしれませんが）、1 万円程度に緩和したいと考えている。

伊東：

- ・登録金の減額ではなく、今期についてはコロナ還元金として、1 チーム 3000～5000 円返金する案も考えられ、事務手続き軽減のため、次年度登録料から割り引く方向ことがよいと考える。
- ・大会経費等について、各地区から申請いただければ支出できる予算を準備している。
- ・全国大会の強化費については、現時点の取り決めにそって支出している。

(6) 2021 年度事業計画案 → 二川副理事長

- ・7 / 24～26 で全道 40・70 大会とオリンピックサッカーの日程が重複しているが、現時点で道協会から稼働要請がないため、当面予定通り進める。

7 その他

- ・モルテン ヴァンタッジオ 3050 軽量 5 号白赤の件について → 眞木常任理事
50 のボールが水を吸い重くなる件について。防水加工がないためだが、他に代替しようがないという結論。
- ・20 周年事業について → 工藤副会長
令和 3 年 4 月 10 日の午後にパークホテルを確保した。功労表彰者の選定について、各地区の理事に推薦を依頼したい。
- ・次回常任理事会について → 佐藤英理事長
式典に向けて一度集まるほうが良いと思うので、次回は 2 / 20（土）15：00～とする。

以上